指導事例集ｐ．９７

児童に見られるつまずき

　比較量が基準量より小さい場合に立式することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　数量関係を図に表したものをもとに、整数倍の場合と小数倍の場合を比べて考えさせることで、１寄り小さい小数倍についても、基準量を１として考えることに気付かせる

１　学年・単元名　　第４学年　小数倍（数量関係領域）

２　単元目標

倍の意味を思い出し、図を操作しながら小数倍のイメージをつかんだり、もとにするものをはっきりさせたりすることで、わる数とわられる数をはっきりさせる。

３　単元の内容

・「何倍」が「いくつ分」と同義であること

**・「○は□の何倍か」と問われた時の立式**

・線分図を操作し、整数倍でないもの、１倍（１つ分）に満たないものがあることを確認する。

４　本時の目標

・小数でも何倍かを表すことができることを理解する。

・もとにする量が何かを考え、正しく立式し答えを求めることができる。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　問題文を読み、課題をつかむ。  ア　赤は白の何倍ですか。    ２　めあてをたてる。  テープの長さが白のテープの何倍になるかを考えよう。  ３ 自分の考えを発表し、話し合う。  問題文を読み、課題をつかむ。  イ　青は白の何倍ですか。    自分の考えを発表し、話し合う。  問題文を読み、課題をつかむ。  ウ　黄は白の何倍ですか。    自分の考えを発表し、話し合う。  参考：児童のノート①②  ４　みんなで話し合う。  考えた式の理由を説明する。  ５　本時の学習から分かったことをまとめる。  小数倍を表すゲームをする。  ・宿題が1.5倍。  ・小遣いが2.5倍。  ６　適用問題をする。  赤色のテープは黄色のテープの何倍ですか。  また、青色のテープは赤色のテープの何倍ですか。  ７ 本時をふり返る。 | ・**テープ図を提示することによって、視覚的に小数倍の量感をつかむことができるようにする。**  ・赤と白のどちらがもとにする量になるのか考えさせ、白がもとにする量（基準）になることをおさえる。  **・白がもとにする量（基準）になることが分からない児童には、テープを操作し、赤の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせる。**  ・手の幅を使い、赤は白の２倍を表現する。  ・**テープを操作し、青の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせ、青は白の２つ分より少し小さいことに気付かせる。**  ・手の幅を使い、青は白の1.6倍を表現する。  ・テープ図を提示し、倍の関係を表す線分図は掲示せず、自分で書き加えるようにする。  ・8÷10か10÷8どちらの式になるかを話し合い、どちらをもとにして考えたかテープを操作しながら説明させる。  **・テープを操作し、黄の中に白がいくつ分入るのかを確かめさせ、黄は白の１つ分に満たないことに気付かせる。**  **・１より大きい小数倍、１より小さい小数倍があることに気付くとともに、その量感が分かるようにする。**  ・まとめを生かして適用問題に取り組む。  ・本時の学びで気づかせる。  ・前時までの自分と比べて、本時の学習で考え方が変わったことに目を向けさせる。 |